



ぎふの木ネット協議会 特別フォーラムのご案内

ぎふの木ネット 年末特別フォーラム

日時:2025年12月4(木)13:15~17:00

講師:東京大学大学院 准教授 前 真之 先生 健康快適で電気代も安心な住まいを全ての人に ~木の良さを活かしてみんなの暮らしを豊かにしよう~

前先生より

学生時代より25年間以上、住宅の省エネルギーを研究。 健康・快適で電気代の心配がない生活を太陽エネルギ で実現するエコハウスの実現と普及のための要素技術と 設計手法の開発に取り組んでいます。

住宅のエネルギーを専門に、2050年に日本中でみんなが 快適・健康に、再生可能エネルギー中心に暮らせる、家造りの可能性を研究し



前先生の講演テーマに合わせた各メーカーのブース展示や、様々な協議会メンバーとの交流の場となるような企画も考えています。 こんな出会いを求めていますという希望を事務局までお知らせください。 貴重なお話が聞ける機会ですので、是非ご参加ください。

会場:岐阜グランドホテル 西館2F「雪の間」 〒502-8567 岐阜県岐阜市長良648 ☎058-233-1111 お申込みは、 FAX・メール・Googleフォームにて。 Googleフォームにてお申し込みはこちら

補助金情報



岐阜県から「令和7年度 ぎふの木で家づくり支援事業」補助金のお知らせが届きました。 詳しくはこちらの⇒岐阜県ホームページをご確認ください。

岐阜県都市建築部住宅課より、 「脱炭素社会ぎふモデル住宅普及事業費補助金」の お知らせが届きました。

詳しくはこちらの⇒岐阜県ホームページをご確認く ださい。



全国木材組合連合会より、「花粉症対策木材利用促進事業の公募」についてお知らせが届きました。



住宅ローン情報

住宅金融支援機構から全期間固定金利の住宅ローン【フラット35】についてのお知らせが届きました。 詳しくは下記のチラシにてご確認ください。



2 0 2 5 年 7 月

金融市場・住宅ローン市場関連情報

明治安田生命保険相互会社東海機構団信室

<当歯科に関する配合先> 明放区用生命特殊相互会社 東海機構団領室 TEL:052-972-8217 (平日9:00~17:00) 参加解え五度中内区第3-5-27 銀中央ビルら居

MY25=391016





ぎふの木ネットのコンセプトブックが新しくなりました。

お施主様等に配布をご希望の場合は、事務局まで連絡ください。



この冊子には、ぎふの木ネットがどういった活動をしているか、また木材の良さやメリットなどの情報が盛りだくさんです。

お施主様に配布できる場面があればぜひ活用してください。

お施主様等に配布をご希望の場合は、事務局まで連絡ください。

コンセプトブックはこちらから





会員様のイベント情報を募集します。

オープンハウスなどのイベントの予定がある場合は、事務局にお知らせください。 タイミングが合えば、ぜひ取材に行かせていただきたいです。 取材した内容はサイト上にてご紹介させていただきます。 ご紹介サイトはこちら

吉田会長からの メッセージ



Stop 地球温暖化! 私達にできる事…(前編)

世界の森林減少。しかしCO2吸収量は?



1992年に世界の陸域の33%を森林が占めたが、2022年には31%と2ポイント減りました。樹木を伐採したり、焼いたりする人間活動が原因です。「世界で年間1,000万へクタールの森林が消失し、損失は世界のGDPの10%に相当する」と言われています。中国やアジアそして欧州でも植林活動や放牧地が減り森林が増えています。森林減少が著しいのは南半球で、南米とアフリカでは過去30年で2.4億ヘクタールが失われています。ブラジルでは食肉や大豆の生産の為、又アフリカでは燃料調達やカカオなどの農作物生産の為に森林破壊が進んでいます。

しかし世界の森林が吸収するCO2の量は増えています。森林自体は伐採や火災により減っていますが、年間のCO2吸収量は50年前から約50億トン増えています。地球温暖化の影響で光合成が活発になっています。大気中のCO2濃度は、18世紀の産業革命以降上昇が続いており、約50%ほど増えています。



熱をため易いCO2の濃度が高まれば、温暖化を引きおこす。寒冷地の植物が、気温上昇によって活発にCO2を吸収しています。

しかし日本の森林は?



ている)

日本は森林面積が2,500万へクタールでほぼ変わらないのにCO2吸収量は2003年頃1億1,000万トンをピークに減り続け、2022年には6,000万トンを割り込み、20年間で4割ほど減っています。森林面積を維持できても適切な管理を怠ればCO2の吸収量が減る代表例が、国土の2/3を森林が覆う日本です。

原因は木の高齢化で樹齢が50年以上になると成長しにくくなり吸収量が急激に下がるからです。(日本の人工林の半数超が50年生を超え

今必要な事は!

岐阜の森も高樹齢の木の割合がどんどん増えています。必要な事は伐って、 使って、植えて、育てる…CO₂減少にはこのサイクルを加速させる事が喫緊の 課題です。

更に今CO2の処分にはCCSというシステムで地中にCO2を埋めて閉じ込める方法が進められつつありますが、1番安上がりで簡単な方法は、あらゆる空間の木質化を進めること。CO2を炭素の型で固定化する事が一番の近道です。

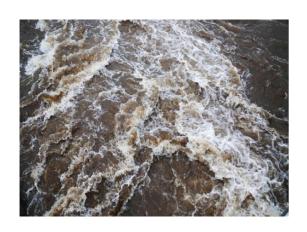
温暖化がもたらすもの

CO2増加による温暖化でどんな事が起こっているのか?

夏の気温上昇、雨量増加

近年日本の大平洋を流れる黒潮の流れが変わり南に大きく迂回する「大蛇行」が見られています。「黒潮大蛇行」により夏の関東や東海で猛暑になったり降水量が増えたりしています。ここ数年、東海地方沿岸の海面温度が平均約3℃上昇し、陸上の気温も関東から東海にかけて上がっていました。

更に降水量も過去30年の平均に比べ、50%位多い事も判明しております。水蒸気が増えると大気が不安定化し、降水量が増える結果になります。今世紀末には5℃の海水温上昇が見込まれており、災害の増加が懸念されております。



都市に稲妻呼ぶ温暖化

日本で雷が増えています。大都市圏ではこの4半世紀で雷発生日数は16%ほど増えています。温暖化で空気が暖められて上昇気流となり、雷を起こす積乱雲ができ易くなっています。

落雷による人や物への被害も急増して保 険金の支払い金額が増加傾向となってい ます。

「平均気温が1℃上昇すれば地球全体で発雷率が18%以上上昇する」という点を多くの学者から指摘されています。雷により建設被害だけでなく、瞬間的に電圧



が高まって家電製品の故障にもつながっています。 22年度の保険金支払い額は09年に比べて6倍以上となっています。

食料品への影響も

日銀は物価上昇の目標に2%の上昇率を挙げています。しかし2025年の食料品の値上げは2万品目にものぼり、生鮮食品の上昇が大きなウエイトを占める様になった。

これは温暖化が進んだ影響で猛暑や豪雨などが増えた時期と重なっています。

水資源に忍びよる危機

この夏は一部で水不足が起きた一方、九州・東北などで記録的な豪雨に見舞われ、水のリスクが表面化しています。

日本は「水資源に恵まれた国」と言われていますが必ずしもそうではなく、年間降水量は世界平均の2倍位ですが、人口1人当たりでは平均の1/3。ここから蒸発量を引いた水資源量は1人当たり3,350㎡と世界平均の約半分にとどまっています。

地域による差も大きく、首都圏の1人当たり水資源量は中東諸国並み。一方、 北海道や山陰、南九州では首都圏の10倍を超え、水害の頻発と裏腹の関係に あります。温暖化により短時間で猛烈に降る雨が増える半面、雨の降らない日 も増えています。

気候の極端化は洪水の増加に加え渇水リスクも高めているとの予測もあり、水の危機は気候変動と並び地球規模の課題ですあり、今や世界の20億人が安全



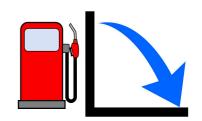
でない飲料水源を使い、7億人が慢性的な水不足に悩んでいます。

空気と同じ当たり前の水がこれから大きな問題となりそうです。

ガソリン減税、来年実現なら?

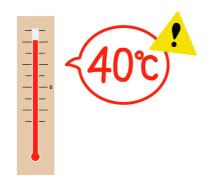
与野党が進めるガソリン・軽油の旧暫定税率の廃止が2026年に実現したら、30年時点のCO₂排出量は610万トンも増えるとの試算もあります。ガソリンが安くなって自動車の利用が増え、家計の不安も減り経済活動が活発化する結果です。

エネルギー起源のCO2排出量は23年度に9億2,200万トンですが、政府はこれを30年度に6億7,700万トンに減らそうとする目標を立てていますが、時代に逆行なる流れとなっています。



汗で体を冷やせない日常に

今年8月5日に群馬県伊勢崎市で国内最高の41.8℃が記録され、40℃を越える場所が相次ぎました。一時岐阜県多治見市が日本一暑い町として有名となりましたが、最近ではそれ以上の気温が相次ぎ殆ど話題にものぼらなくなりました。



最近では気温が健康な人の体温である36~37℃を超える日も多くなってきております。温度が上れば人は汗をかきます。汗が体温を下げる仕組みは、皮膚の汗腺から出る汗の主成分の水で、空気に触れると蒸発し水蒸気となり、この時「気化熱」と呼ぶ熱を皮膚から奪うからです。

しかし温暖化で湿度や気温が高くなると、汗は 蒸発せず体の熱は発散しないまま残ってしまい ます。特に問題になるのは高い湿度で皮膚を流

れる汗と空気の間では無数の水の分子が行き来しており、温度が高いと空気から皮膚に届く水分子が増え、汗は乾かずに体から熱を奪えなくなることです。

世界の平均気温が産業革命前に比べ2℃上昇すると、インド、中国、アフリカに住む40億人が体の許容範囲を超える暑さに見舞われるという予測があります。その結果、熱中症をはじめとする健康被害が多発する事につながります。

24年の世界の平均気温は産業革命前より既に 1.0℃上昇しており、汗が体の熱を逃がす機能 を失う世界が間近に迫っています。







正しく表示されない場合はこちら

このメールは、ぎふの木ネットからのメール配信をご希望された方に送信しております。今後も引き続きメールの受信を希望される方は <u>こちらをクリック</u> してください。 今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから<u>配信停止手続きが行えます。</u>

本メールは yamagataya_s_info@ymg-s.co.jp よりgreenhome@ymg-s.co.jp 宛に送信しております。 みやまち ヤマガタヤ産業内, 羽島郡岐南町, 岐阜県 501-6019, Japan

✔認証 開読停止 配信停止 | 登録情報更新

